公開シンポジウムのお知らせ

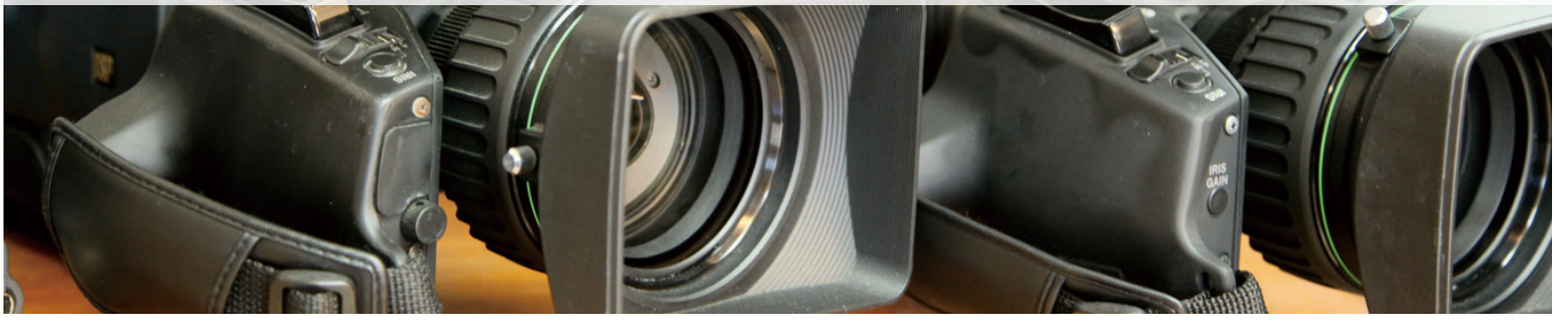
シリアにおける邦人人質殺害事件を検証する

//////// ジャーナリズムの立場から ////////

開催日時：2015年6月26日（金）18：30～21：00
開催場所：立教大学池袋キャンパス，８号館8202教室

2015年5月21日，内閣官房副長官（事務）を委員長とする「邦人殺害テロ事件の対応に関する検証委員会」による検証報告書が公開されました。
本学の長有紀枝・21世紀社会デザイン研究科教授が外部の有識者5名の一人としてこのプロセスに参画しましたが，本検証委員会は，政府の対応を検証するもので，事件の全容の解明やフリージャーナリストであった後藤健二氏のIS支配地域への入域の理由や背景などを含めた議論を目的としたものではありません。
世界情勢がめまぐるしく変化する昨今、本学関係者を含む一般市民に注意を喚起し，類似の事件の再発防止に寄与するとともに，政府の検証委員会による検証報告を，市民，特にメディアの視点から補完する目的で、本シンポジウムを開催します。

（※イスラム教への誤解が広がらないよう，「イスラム国」ではなく「IS」の呼称を用いています。）



【パネリスト】：野中 章弘：アジアプレス・インターナショナル代表，早稲田大学政治経済学術院教授
七沢　潔：ＮＨＫ放送文化研究所・上級研究員
白川　徹：フリージャーナリスト・21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程在籍中
【コメント】：砂川 浩慶：立教大学社会学部メディア社会学科准教授
【コーディネーター】：長 有紀枝：立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・社会学部教授
◎主催：立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所　◎共催：立教大学社会学部
◎協力：特定非営利活動法人難民を助ける会【AAR Japan】

参加方法：参加費無料。要申込み：所属・氏名・e-mailアドレス、シンポジウム開催日を記載の上、専用アドレスに申込み：humanity@rikkyo.ac.jp
問合せ：21世紀社会デザイン研究科委員長室 TEL 03-3985-2181（月～金）11:00～18:00

登壇者略歴

野中 章弘

アジアプレス・インターナショナル代表，早稲田大学政治経済学術院教授

1953 年兵庫県生まれ。関西学院大学経済学部卒。87 年，アジアプレス・インターナショナル設立，同代表。元立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任教授（2007 年～ 2012 年）。13 年より，早稲田大学政治経済学術院教授。80 年代初頭より，インドシナ紛争，アフガン内戦，エチオピア飢餓，ビルマの少数民族のゲリラ闘争，チベット，東ティモール独立闘争，中国・朝鮮半島情勢，アフガン空爆，イラク戦争など，おもにアジアの社会問題を取材。03，04 年度朝日新聞紙面審議会委員。第３回『放送人グランプリ特別賞』受賞。ＮＨＫを中心にニュース，ドキュメンタリーを 200 本以上制作。著書・編著に『ジャーナリズムの可能性』（2005 年岩波書店），『メディアが変えるアジア』（2001 年岩波書店），『ビデオ・ジャーナリスト入門』（1996 年はる書房），『アジアＴＶ革命』（1993 年三田出版会），『沈黙と微笑―タイ・カンボジア国境から』（1981 年創樹社）など。

七沢　潔

ＮＨＫ放送文化研究所・上級研究員

1957 年静岡県生まれ。1981 年早稲田大学政治経済学部卒業後，NHK 入局。ディレクターとして沖縄，原発，戦争，イスラム世界などをテーマにドキュメンタリー番組を制作。モンテカルロ国際テレビ映像祭特別賞，日本新聞協会賞 (1992 年) などを受賞。2004 年からＮＨＫ放送文化研究所研究員。2011 年の福島第一原発事故後，ＥＴＶ特集『ネットワークでつくる放射能汚染地図』を制作，日本ジャーナリスト会議大賞，石橋湛山記念・早稲田ジャーナリズム大賞，文化庁芸術祭テレビドキュメンタリー部門大賞，ドイツ世界映像祭銀賞，シカゴ国際映画祭銀賞などを受賞。著書に『東海村臨界事故への道ー払われなかった安全コスト』(2005 年岩波書店)，『原発事故を問うーチェルノブイリから，もんじゅへ』(1996 年岩波新書)，『チェルノブイリ食糧汚染』(1988 年講談社)。
後藤健二さんと NHK・ETV 特集「越冬・アフガニスタン」（2001 年）を制作。また紛争地で取材する日本人フリージャーナリストに題材をとり ETV 特集「戦場から伝えるもの」（2004 年）を制作した。

白川　徹

フリージャーナリスト・21 世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程在籍中

1984 年東京都生まれ。オーストラリア留学を経て，2006 年からアフガニスタンを中心に取材を続ける。2008 年には「対テロ戦争」を任務とするアフガニスタン東部の米軍基地のルポを行い，新聞，雑誌，テレビに寄稿した。

砂川　浩慶

立教大学社会学部部メディア社会学科准教授

1963 年沖縄・宮古島生まれ。1986 年早稲田大学教育学部卒業後、日本民間放送連盟入社。20 年にわたり、放送制度、著作権、機関紙記者、地上デジタル放送などを担当。2006 年メディア社会学科開設とともに、立教大学に着任、現職。2011 年からメディア総合研究所所長。研究テーマはメディア産業・制度、ジャーナリズムなど。主な論考に『放送法を読みとく』（2009、編著、商事法務）、「民間放送ー産業化と自主自立の狭間で」（2011、『表現の自由 II ー状況から』、尚学社）、「安倍政権の “メディア規制” の履歴」（2013 年 5 月号、『放送レポート』、メディア総合研究所）など。

長　有紀枝

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会学部教授

1963 年東京に生まれ、茨城県で育つ。1987 年早稲田大学政治経済学部卒業、1990 年同大学院政治学研究科修士課程終了後、民間企業勤務を経て 1991 年より 2003 年まで国際協力 NGO 難民を助ける会（AAR）勤務。紛争下の人道支援や地雷対策に携わる。2007 年東京大学大学院博士後期課程修了。2008 年より AAR 理事長。2009 年に立教大学着任、2010 年より現職。著書に『スレブレニツァーあるジェノサイドをめぐる考察』（東信堂 2009 年）『入門 人間の安全保障』（中央公論新社 2012 年）